

2.特養の医療機能に関する調査研究報告(抜粋)

＜全国老人福祉施設協議会(平成19年4月)＞

報告書サマリ

【調査目的】

昨年度の基礎的な調査に引き続き、看護職員配置をはじめとする医療対応の体制、また、入所者の医療ニーズ、施設スタッフ等による医療対応の実態を医療(処置)別に掘り下げた実態把握を行う必要性は高い。施設サービスのあり方、施設の役割分担の検討が進む中で、“介護新時代”における特養の機能およびそれらを支える各基準や職制について、提言を行うことを目的とする。

【調査方法】

会員施設から定員50人施設を中心に500施設を任意抽出し、アンケート方式で実施した。調査票は、①施設票、②入所者票(全数調査票)、③重度者個別票の3種類とし、回答は、①185票、②185票(9,088人)、③180票(849人)、回収率37.0%であった。

【調査結果概要】

1. 入所者の重度化に並行して、医療ニーズは確実に増大 (21頁他)

入所者全数票より得られたデータでは、約8,000人の入所者のうち、平成18年9月中に処置が行われたのは、「喀痰吸引」10.2%、「胃ろう」8.6%、「じょくそう処置」7.0%、「点滴」4.7%であった。(平成13年厚労省調査では、喀痰吸引3.0%、経管栄養4.0%、じょくそう処置1.5%、点滴2.1%であった。)

		合計	要介護3以下	要介護4	要介護5
喀痰吸引	有効N	8,114人	2,535	2,626	2,953
	処置あり	827人	40	103	684
	割合	10.2%	1.6%	3.9%	23.2%
胃ろう	有効N	8,130人	2,547	2,627	2,956
	処置あり	703人	14	48	641
	割合	8.6%	0.5%	1.8%	21.7%
じょくそう 処置	有効N	7,958人	2,507	2,594	2,857
	処置あり	557人	63	135	359
	割合	7.0%	2.5%	5.2%	12.6%
点滴	有効N	8,021人	2,529	2,620	2,872
	処置あり	375人	87	89	199
	割合	4.7%	3.4%	3.4%	6.9%

2. 医療ニーズの増大に対し、看護職員の配置・業務配分に不足感 (7,8頁他)

1施設(平均定員50.4人)あたりの看護職員配置は、常勤で正看1.3、准看1.8(計3.1名)、非常勤を合わせ計3.6名であった。夜勤体制は、「あり」が109施設中3施設、「準夜勤」が5施設(いずれも1名配置)、夜間オンコール体制が92施設(84.4%)平均数1.1名